

地方 紀行 民鉄

電車が空港に近づくと

何となくワクワクしてくる。

空港は空の旅への玄関口

どこか遠くにつながっている。

本当に旅に出るわけじゃなくても

そこに向かって行くことで

旅気分が味わえる。

仙台空港鉄道株式会社



「空

港アクセス線」だからといって、利用者の目的地が空港とは限らない。仙台空港鉄道・仙台空港アクセス線の杜せきのした駅。そろそろと下車していく人の流れに加わりながら、そんなことに改めて気づく。

目的地は空港ではなく……

杜せきのした駅は、仙台空港駅の二つ手前、仙台駅からは五つ目。一つ手前の名取駅まで、乗降を繰り返しながらも、ほぼ満席をキープしていた乗客の半数以上が、この駅でござり下車。そうして降りた人のほとんどが、駅舎とデッキでつながったショッピングモールに吸い込まれていく。

飲食店はもちろん映画館も併設した大型ショッピングモールは、1日いても飽きなさそう。なるほど、目的地になるはずだ。館内に散らばっていく元乗客の皆さんを見送ってからショッピングモールを通り抜ける。

こちらの目的地はショッピングモールではなく、沿線のお勧めグルメとして仙台空港鉄道株式会社のご担当者さまに紹介していただいたジェラート店。田んぼ沿いの車道を歩くこと十数分。たどり着いたお店には先客数名。「仙台だし、ずんだを選ぶべきだったかなあ」と思いつつ、先客の注文につられて選んだ塩キャラメルのジェラートをパクつく。

エネルギーも補給したことだし、ちよっと周囲を歩いてみようか。地図アプリで確認した杜せきのした駅から一つ先の美田園駅までは、歩いていけない距離じゃなさそう。

トンネルを抜けるとそこは空港

仙台空港アクセス線は全線高架。電車が走るのには建物の3階分くらいの高さ。高架橋の脇には防音壁があり、地上から走る電車の姿は見えない。その分、散策の目印としては最適。美田園駅に向かって高架橋を横目に歩いていく。

高架橋周辺は綺麗に区画整理された住宅街が広がっているけれど、少し離れると田んぼに変わる。「美田園」という地名は、この辺りの美しい田園風景に由来するのかもしれない。ゆっくり歩いて30分弱。美田園駅に到着。美田園駅の次はもう仙台空港駅。残り1駅とはいえ、歩くには距離がありそうなので、おとなしく電車に乗る。

電車が美田園駅を出て数分。車窓から見える仙台空港のターミナルビルが次第に大きくなり、ちよっとワクワクしてきたところで、視線がぐんつと下がって、電車はトンネルに突入。そのまま暗闇を走ること数十秒。外の明かりが近づいてきて、「地上に出るかな」と思った瞬間、思いもよらぬ近さで飛行機の機体が目に飛び込んでくる。「あっ！」とカメラを構える間もなく、今度は視線がぐんつと上がって、電車は再び高架に上がり、仙台空港駅に到着。

震災後10年目の景色

仙台空港駅のホームは2階。改札を出ると、仙台空港ターミナルビル2階と連絡通路で直結している。



杜せきのした駅-美田園駅間は高架橋から離れると田んぼが広がる。



下からでは高架橋の上を走る電車は見えない。

仙台空港アクセス線

【せんだいこうこうあくせすせん】

JR 東北本線に直接乗り入れすることで、JR 仙台駅と仙台空港駅を最速17分で乗り換えなしで結ぶ。





展望デッキ「スマイルテラス」へ。平日でも結構な賑わい。



空港から海までの間に建物はほとんどなく、避難丘が点在している。



東日本大震災時の津波浸水深を示すプレート。身長よりずっと高い位置にある。

旅気分を空港で
仙台空港ターミナルビルの展望デッキ「スマイルテラス」は入場無料。飛行機の搭乗チ

「あっちの道だけ……。車が基本だから、歩道はあったかなあ」。苦笑いとともに返ってきた返事の裏に、目的地までの距離の遠さを感じ取り、断念。それなら避難丘に登ってみようかと一番近くの丘に目を向けると、いつの間に来たのか、小さな子供たちの集団が。子供の邪魔はしたくない。空港ターミナルビルにある展望デッキに向かう。

連絡通路を渡っていく人の流れから外れ、駅の外に出るエスカレーターに乗る。途中の壁には「2011.3.11東日本大震災 津波浸水深さまで」の表示。エスカレーターを降りて仰ぎ見ると、表示の位置は約3メートル、手を挙げても届かない高さにある。震災当時、駅舎1階にあった仙台空港アクセス線の運輸指令室やトンネルは浸水。甚大な被害が出たという。あれから10年、綺麗に修繕された現在の姿に震災の傷跡は見られなけれど、浸水深の表示の高さに被害の程が想像される。駅を出て駐車場を抜けると、海まで広がる空き地に建物は数えるほどしかなく、震災後に整備された津波避難丘が点々としている。丘の上からは海岸線や空港が見渡せるらしいが、確か仙台空港近くには飛行機の発着が真横で見られる公園もあったはず。人の気配がない空き地で、どうにか工事車両の交通整理をしている人を見つけて道を尋ねる。

そんなことを考えていたら、「ふらんすに行きたしと思へども ふうんすはあまりに遠し せめては新しき背広をきて きままなる旅にいでてみん」と謳った萩原朔太郎の詩を思い出した。今の心境をこの詩に当てはめるとしたら、さしずめこんな感じかも……。

「撮れなかった！ もう一回」を繰り返す。その「もう一回」までの間隔が、結構長い。次の便を待ちながら、滑走路の先に目をやると、美田園駅を出た電車がトンネルに入ります。……駐機場のすぐ脇から出てきた。車内の様子は見えないけれど、突然、真横に現れた飛行機に、「あー」と思った乗客がきつこいたはず。「いつもと違うどこか」につながる空港や飛行機には不思議な魅力がある。実際に飛行機に乗ってどこかに行くわけじゃなくても、飛行機を見るとテンションが上がる。空港に行くだけでワクワクしてくる人も少なくない。

ケットがなくても入ることができる。そのせいか、フライトまでに時間があるからというより、飛行機を見ることを目的に空港にやって来たという感じの親子連れが多い。さて、肝心の飛行機の発着はというと、コロナ禍で減便しているらしく、少々寂しい。風向きで離発着の向きが変わるためか、本日は展望デッキ近くで見えるのは離陸ばかり。しかもその瞬間はあっという間で、浮いたと思ったり、もう空高く飛んで行ってしまおう。飛んでいく飛行機を写真に撮るのは難しく、「撮れなかった！ もう一回」を繰り返す。その「もう一回」までの間隔が、結構長い。次の便を待ちながら、滑走路の先に目をやると、美田園駅を出た電車がトンネルに入ります。……駐機場のすぐ脇から出てきた。車内の様子は見えないけれど、突然、真横に現れた飛行機に、「あー」と思った乗客がきつこいたはず。「いつもと違うどこか」につながる空港や飛行機には不思議な魅力がある。実際に飛行機に乗ってどこかに行くわけじゃなくても、飛行機を見るとテンションが上がる。空港に行くだけでワクワクしてくる人も少なくない。



高架が低くなってトンネルへ（写真左）。トンネルの出口は駐機場の真横（写真右：中央のあたり）。



離陸の瞬間を撮るのは難しい。